

2008年5月号(第54号)

発行人：曾山 信彦

兵庫県淡路市志筑1391-9

Tel: 0799-62-5566

http://www.h6.dion.ne.jp/~soyama

ふれあい曾山医院

胃潰瘍

胃は食べ物を消化し、栄養を吸収しやすい状態にして小腸に送り出します。この為、胃壁から塩酸と同じくらい強い酸である胃酸が分泌されて、消化活動を行っています。胃酸は、食べ物と一緒に入ってきた細菌や微生物などを死滅させ、胃の中で腐敗が起これないようにする働きもしています。

胃酸と同時に胃粘液も分泌されます。胃粘液には、消化力の強い胃酸が直接粘膜に触れて、損傷を与えないようなバリアー機能があります。ピロリ菌、アスピリンなどの非



胃潰瘍は胃の壁に出来た傷(組織欠損)の深さによって、粘膜層だけにどまる場合、粘膜下層までの場合、筋層までの場合、漿膜下組織にまで及ぶ場合の4段階に分類されます。粘

膜層だけの浅い傷の場合はびらんと呼び、粘膜下層以上の深さに及ぶ傷を潰瘍と定義しています。潰瘍は深いものほど治りにくくなります。胃の一番外側の漿膜まで及ぶ深い潰瘍のなかには、胃の壁に穴があき(これを穿孔といいます)胃内容が腹腔内に漏れ出して腹膜炎を起こし手術が必要になる場合もあります。

【胃潰瘍の症状】

胃潰瘍の主な自覚症状は、上腹部痛、みぞおちの部分の痛みや食後の痛み、胸焼けなどの症状があります。高齢者では自覚症状が全くない場合もあります。潰瘍ができるとそこから出血する場合もあります。慢性の出血の場合には貧血



が起こりますが、急性の出血では吐血や下血、血圧が下がって冷や汗がでたり動悸やたちくらみなどの症状が現れます。

【胃潰瘍の診断】

主にバリウムを用いたX線造影検査や、上部消化管内視鏡検査で診断されます。最近では、潰瘍の最も重要な原因はピロリ菌であると考えられています。

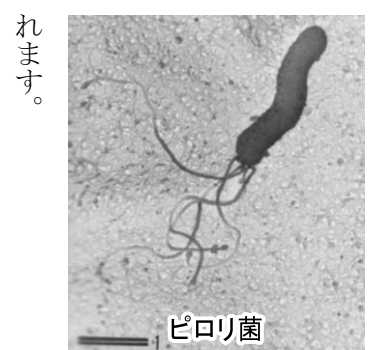
【治療】

胃潰瘍の治療は、薬物療法、ピロリ菌の除菌治療があります。

薬物療法の代表的なものには、ヒスタミンH2受容体拮抗薬とプロトンポンプ阻害薬があります。どちらも胃酸を抑える薬で効果が高く、安全性の面でも優れています。

【ピロリ菌除菌治療】

日本でもピロリ菌除菌治療が保険適用となり胃潰瘍の治療促進と再発予防に有効で、除菌に成功した場合には維持療法を行わなくても胃潰瘍再発が著明に抑制さ



ピロリ菌

れます。胃潰瘍をきちんと治すためには、治療を始めて症状がよくなっても、医師から指示された一定の期間は薬剤の服用を厳守する必要があります。それは、症状がなくなっても、潰瘍の傷はまだ治っていないことが多いからです。薬剤の飲み忘れは再発の大きな原因となります。胃の粘膜を守るには、過労やストレスを避けることが大切です。禁酒、禁煙はもとより、胃酸の分泌を促すような食事(コーヒー、紅茶、強い香辛料などの刺激物)は控え、一日三食規則正しい食生活を心がけるなどの、生活習慣にも注意が必要です。(看護師 丸橋 節子)

今回の題字は、読者の方にお書きいただきました。